

苺の暖候期にかけて管理について(No.1)

本年の作型は、年内の増収と連続型で株疲れや生育ムラになって来ます。2月中旬は気候の変化で草丈の徒長抑制と品質維持を主管理に努めましょう。

1.主管理項目について

①草丈の抑制(徒長防止対策)

・草丈の徒長は、果梗枝が細くなり果実の肥大に影響します。

②茎葉や果実の整理

・玉出しや芽の整理、摘花で果実の肥大促進と品質向上。

③施設内の適正管理

・高温対策や電照調整、炭酸ガスの適正な管理。
・高温期にかけての遮光対策(極端は光合成の鈍化)3月下旬
・水管理、肥料施肥の適正化に努める。

2.一般的な管理について

①温度管理

・日中は26℃～28℃(午後)を保ち夜温は6℃をキープする。
・炭酸ガス施用中での日没加温(3時間)は実施する。
・降雨時の高温(暖雨)の早朝は施設を開けて徒長抑制する。

②水管理

・温度上昇と共に吸水・蒸散量は増すので少量多灌水とする。
・地温15℃前後で吸水量は増す1株200～250cc

③電照

・芯葉の葉柄の高さを確認して時間調整する。(3/中旬迄)
・芯葉の展開が鈍化傾向の場合は、早朝電照とする。

④炭酸ガス施用

・サイド面の開閉時までには施用する。
・春先でも果実の多い場合は施用することで効果あり。

⑤防除

・ダニ、アザミウマの的確な防除を行う(収穫期の延長)。

⑥茎葉の管理

・生育に応じた玉出し、摘果作業で果実や葉に受光を良くした品質向上。

3.施肥管理について

①果実肥大を良好にする施肥

「10a当り施肥量」

「光合成作用で生成した養分を分配するには**水分とカリ肥料**です」

【果実肥大促進・日持ち対策】

- ・**カリっと**⇒7～10日置きに1kgを灌水処理
- ・**ウルル18号**⇒5～7日置きに5kgを灌水処理
- ・**コーゲン・ラボ**や**ウルル2号**と併用は300gを混用処理

【根域の維持対策】(P、Ca、微量元素の吸収力アップにも)

- ・**アミクエ**⇒7～10日置きに5～10kg灌水処理

【果実の硬化や日持ち、ガク枯れ対策】

- ・**新カル元気**⇒5～7日置きに2～3kg灌水処理
- ・葉面散布の場合には、1000倍処理

又は

- ・**有機カルトップ**⇒7～10日置きに300～500g灌水処理

【徒長抑制・果実肥大促進対策】

- ・**PKゴー**⇒5日置きに2000倍の葉面散布
- ・灌水処理の場合には、300～500g処理

【食味向上・生育安定対策】

- ・**コーゲン・ラボ**⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

【生育促進対策】

- ・**ウルル2号**⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

地温(15℃)の上昇と共に吸水量やN吸収量は高くなります。